

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】

徳武 太郎

【所属】(助成決定時)

京都大学大学院文学研究科博士後期課程

【研究題目】

インド数学写本の現地調査：『トリシャティー』を中心に

【研究の目的】(400字程度)

『トリシャティー』（『三百〔詩節〕』）は、800年頃にインドで活躍した数学者シュリーダラがサンスクリット語で著した数学書である。同書は初心者のための簡便な数学の教科書であり、後世の数学者たちにより頻繁に引用され、長期にわたり読み継がれてきた。このことは、今でも10以上の写本が南北インドを通して現存することからもわかる。『トリシャティー』は1899年に一度出版されているが、その刊本には編者の S. Dvivedi が参照した写本の情報が与えられていないという重大な問題点がある。それにもかかわらず、先行研究のほとんどが同刊本のみに基づいており、今もなお『トリシャティー』の研究は基礎資料を欠いた状態が続いている。この現状を打開するためには、現存写本を可能な限り収集した上で、詳細に比較し、新たな校訂本を作成する必要がある。本研究では、『トリシャティー』の校訂本を作成するための準備として、インド各地の図書館にて写本の収集をおこなう。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本調査において写本を扱った際には以下の点を遵守した。所属機関より発行された紹介状を持参して所蔵の図書館や研究機関を訪れた。貴重な写本を傷つけないためにも、所蔵機関の提示する規則を遵守して制限内で収集をおこなった。

2024年2月11日-21日に西ベンガル州コルカタの Asiatic Society of Bengal および Sanskrit College and University を訪問した。Asiatic Society of Bengal では写本の現物を閲覧し、その後に複写申請をおこない、後日図書館員から『トリシャティー』を含む計10写本の画像データを送付していただいた。Sanskrit College and University では図書館の責任者との面会はできたが、残念ながら写本の複写は許可していただけなかった。

2024年2月22日-3月7日にウッタルプラデーシュ州ヴァーラーナシーの Saraswati Bhawan Library を訪問した。調査に先立ち、知人の紹介により Banaras Hindu University の教授の研究室を訪問し、Saraswati Bhawan Library の図書館長への紹介状を作成していただいた。その紹介状を持参して Saraswati Bhawan Library を訪問して複写の交渉をおこなった。交渉に際しては、現地の方に英語とヒンディー語の通訳をしていただいた。そして6度目の訪問で『トリシャティー』、ナーラーヤナ・パンディタ（14世紀中頃）による代数学書『ビージャガニタアヴァタンサ』（『種子数学の花輪』）、および算術書『パーティーガニタ』（『アルゴリズム数学』）という3写本のコピーの入手に成功した。

2024年3月8日-30日にラージャスターン州ジャイプルの Maharaja Sawai Man Singh II Museum を訪問し、『ビージャガニタアヴァタンサ』を含む計4写本の閲覧と筆写（手書きまたはタイピング）の許可を得ることができた。滞在期間中は可能な範囲で筆写をし、最終日に画像データを入手するために図書館の責任者に複写申請書を提出した。訪問後まもなくして責任者が交代したらしく、いまだに複写申請に対する回答は得られていないが、引き続き電子メールとSNSでの連絡を試みる予定である。

【結論・考察】（４００字程度）

本調査の主な成果としては、『トリシャティー』の２写本と『ビージャガニタアヴァタンサ』の１写本を入手したこと、および後者の完全な写本の一部を Maharaja Sawai Man Singh II Museum にて筆写したことである。Asiatic Society of Bengal の『トリシャティー』の写本はベンガル文字で書かれており、東インドにおける同書の伝承を解明するための貴重な資料である。Saraswati Bhawan Library の『トリシャティー』の写本には 1899 年の刊本との類似点が多く、同刊本の底本と同系統に属する可能性が高いことが明らかとなった。

『ビージャガニタアヴァタンサ』はこれまでに２度出版されているが、どちらの刊本も後半部分が欠落しており、その全容はいまだに不明である。Saraswati Bhawan Library で入手した写本は不完全でありながらも、同書の未解明部分を含む貴重資料であることが判明した。Maharaja Sawai Man Singh II Museum の写本は欠損部分のない完全なものであり、未解明部分を 25 ページ分複写することで、『ビージャガニタアヴァタンサ』の全容を解明するための足がかりを得た。